



スイートコーン栽培方法



1 畑の準備

タネまきの2週間以上前に苦土石灰を全面に散布して耕し、1週間前に元肥を施してよく耕し、畝を作ります。株の配置は、実入りを考えると1条にするより数条にして、花粉が雌穂によくつくようにするとよいでしょう。マルチなしでも栽培できますが、ポリフィルムで畝全体にマルチをすると、発芽と生育が早く丈夫に育ちます。

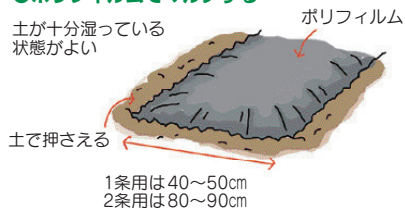
●タネまき2週間以上前



●タネまき1週間前



●ポリフィルムでマルチする



2 タネまきと間引き

マルチ栽培の場合は、タネまき直前にフィルムに直径7~10cmほどの穴を開け、その穴の土を深さ3~4cmほど掘り取ります。そこに3~4粒のタネを2~3cm離してまき、2~3cmの厚さで土をかけて手で軽く押さえます。これはマルチなしの場合も同じです。本葉4枚の頃に(草丈20cmくらいまでに)間引いて、生育のよい株を1本だけ残します。



POINT 間引きの時、残す株の根を傷めないように!

土が乾燥ぎみの時は、タネまき後に水やりをした方がよいでしょう。ハト、カラスの食害を防ぐため、芽が出るまで鳥除けの網などで覆っておきます。間引きは不要な苗をハサミで切り取ると、残す苗の根を傷めません。

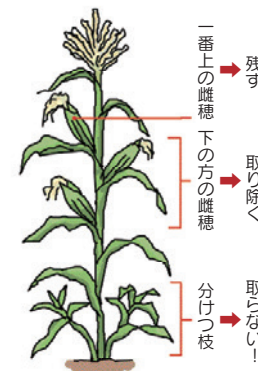
3 追肥・土寄せなど、収穫までの栽培管理

草丈50cmの頃にマルチフィルムをはぎます。追肥と土寄せはこのフィルムをはぎのあと、茎の先端に雄穂が出た頃に行います。追肥は速効性の化成肥料を1株当たり1握り程度(約50g)を株元のまわりにばらまき、まいた肥料が隠れる程度に通路部分から土を寄せます。雌穂は1番上のみを残し、下の方に出ている雌穂は1番上の雌穂の絹糸(毛)が出始めた頃に取り除きます。

POINT 株元から出た分けつ枝(わき芽)は取らない!

土寄せすると根がしっかりと張り、倒れにくくなります。取り除いた雌穂は皮をむいてヤングコーンとして利用できます。株元から出た分けつ枝を取ってしまうと実の太りが悪くなります。

●雌穂を整理する



●マルチフィルムをはぎとる

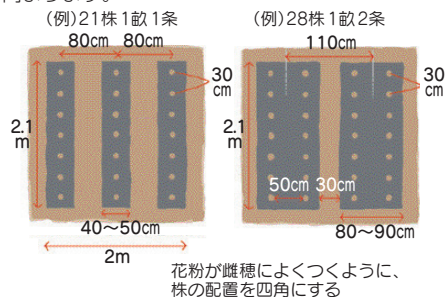


●追肥・土寄せする



POINT 株の配置は四角になるように!

1㎡当たり苦土石灰は約70g、堆肥は2~3kg、化成肥料(N:P:K=8:8:8)は150g程度とします。株の配置では、例えば、1条7株(株間30cm)×3条(列間80cm)にすれば作付け面が四角い配置となり、ほかの株の花粉が飛んできて雌穂につく確率が高まります。



4 病虫害

大敵はアワノメイガの幼虫です。雄穂から雌穂へ幼虫が移動するのを防ぐため、雄穂の出始めた時と、その後7日間隔で殺虫剤を2~3回散布します。薬剤を使わない場合、雄穂が出た後に幼虫が茎の上部に入った場合は雄穂を切り取ります。また、雌穂に近い場所に入った場合は、穴の上3cmくらいをカッターナイフで縦に切り裂いて幼虫を取り出します。

POINT 大敵はアワノメイガ!

病気はほとんど問題ありません。アワノメイガ対策で雄穂を切り取ったから、その雄穂を雌穂の絹糸に触れさせ受粉させるとよいでしょう。株数が多い場合は、人工的に受粉しなくてもほかの株の花粉が雌穂につくので、実は太ります。

5 収穫

適期収穫を心がけてください。収穫適期は絹糸が出てから20~24日です。雌穂の絹糸がこげ茶色になったら少し皮をむいて粒の充実を確かめて収穫します。早採りすると甘みが不十分でしなびるのも早くなります。逆に収穫遅れは色を悪くし、粒皮が硬くなり、甘みも少なくなります。

POINT スイートコーンは収穫後も生きている!

早朝に収穫すると食味がよく、長もちしますが、すぐに食べないのなら呼吸による消耗を防ぐため、皮をつけたまま冷蔵庫の野菜室に保存します。それでも1~2日以内に食べましょう。